



雲の上にはいつも...

【No.12】藤城小学校 校長室より（不定期刊）

令和元年もあと2週間で終わろうとしています。大きな行事にみんなが頑張った2学期でしたが、とりわけ6年生は大文字駅伝出場という光り輝く切符を手に入れました。しんどいことにこそみんなで取り組む。みんなが頑張るからこそ、よりいっそう頑張れる...。5年生のときから学年全員での朝マラをやりきった！（もちろん、今もですよ）代表メンバーだけでなく、文字どおり学年みんなの力で手に入れた成果だといえるでしょう。「あきらめずに挑戦する力」だけでなく、4つの力を伸ばしているみなさんは、ピカピカ光っています！大文字駅伝当日（2月9日）も応援をよろしくお願ひいたします。

さて、12月は人権月間。マザーテレサの「愛の反対は憎しみではなく無関心である」という言葉も使って人権集会をした明くる日、大きなニュースが飛び込んできた。『中村哲医師 銃撃され死亡』。新聞やテレビで連日報じられていたので、詳しい方も多いことでしょう。長い間戦乱状態にあるアフガニスタンで、戦火以上に人々を苦しめているのが「干ばつ」。今でも国民の多くが食料不足に苦しんでいる。「戦乱は武器や戦車では解決しない。農業復活こそがアフガン復興の礎(いしづえ)だ」と白衣を脱ぎ、用水路の建設や井戸掘りに乗り出した中村医師。そして地元の農民とともに数々の苦難を乗り越え用水路を完成させた。水路に水が流れ始めると、奇跡のような光景が現れる。乾いた大地が広大な緑の農地へとよみがえったのだ。中村哲医師の銃撃事件が起きたのは、そんな、人々の平和な営みが再び始まろうとしている矢先の出来事だった。

戦乱状態から平和を取り戻せたのは、武器ではなく「水」だった



子育てもある意味「戦乱状態」となることがある。「なにいっ！親に向かって何や、その口のきき方は！」「あんた、いいかげんにしいや！しまいに怒るで！」といった誰から見てもわかりやすい戦乱状態もあれば、「はあ...。なんでこの子、ちゃんと言うてくれへんのやろ...。」「何かこの頃、暗い顔ばっかしてるけど、“別に大丈夫”って答えるだけで...。」といった心がすり減るような戦乱状態もある。そんなとき、私たちは「良い言葉遣いの親の言うことをきく子」であったり「明るくハキハキした子」にしつけようとエネルギーを注ぎがちだが、どうだろう？わが子に望むことは、身に付けてほしいことは本当にそれなのか？子どもの成長に注ぎ続けるものは何なんだろう？中村医師は平和のために「武器」ではなく「水」を選んだ。そして、水を選んだ後はどんな困難にぶち当たっても、活動を止めなかった。彼が動くことで、農民も含め徐々に心を開き、一緒に活動する人が増えた。あきらめてはいけない。吾ら大人が動かないと子どもも動かない。



決してあきらめず、注ぎ続けること。必ず人は変わり、成長する。



あと1週間で冬休みとなります。年末年始でお忙しいことでしょうが、ちょっと立ち止まってじっくり時間をかけて考えてみたいと思います。大人になったわが子が幸せであるために、今、どんな関わりをしたらいいのかを。



「マザーテレサ」って どんな人なんだろう？



人権集会のときにお話しした「愛の反対は憎しみではなく〇〇である」の言葉を残したマザーテレサ。インドのカルカッタ(現コルカタ)で、「この世で最大の不幸は、戦争や貧困などではありません。人から見放され『自分は誰からも必要とされていない』と感じることなのです。」と、飢えた人、裸の人、家のない人、体の不自由な人、病気の人、必要とされることのないすべての人、愛されていない人、誰からも世話されない人のために働いた。1979年にノーベル平和賞を受賞。普段着のサンダル姿で授賞式に出席。晩餐会(ばんさんかい)は不要とし、賞金も含めて貧しい人々のために使われた。「世界平和のために私たちは何をしたらいいですか？」とのインタビューに「家に帰って家族を愛してください」と答えた話は有名。

思いの深さは次の行動につながる。思いをもつということは人間の行動や言葉を変えていく。だからこそ、志を高くもち、思いを強くもって毎日を送りたい。

マザーテレサの言葉には次のようなものもある。



思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。／言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。／

行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。／習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。／

性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

さあ、自分だけの物語をもとう！どんな自分になりたいか、幸せな自分になる物語を！

